

詳述する暇あらざるなり。

然りと雖ども、今此の傳を終るに臨み、此の偉人が、如何にして、斯くも偉大なる事業をなし、かに就て、遂に一言なきを得ず。

天の其の物を成す、決して偶然にわらず。一枝の花、一穎の實、豈徒爾ならんや。ニュートンの成功の如き、亦數の正に然らざるべからざるものゝつて存す、蓋し、其の天稟の賦性、自から卓越せるものありしに相違なしと雖ども、其をして益々光あらしめし所以のものは、其の堅忍不拔の志氣と、間斷なき考察の結果と相伴ふにわらずんば又期すべからざる所のみ。而して、ニュートンが發表せる、自己の其の勞役に付ての考察に至つては、識見卓抜、遠く世表に出で、自から異彩あるを見る、其の死に先だつ數時、語つて曰く、

「予何を以て世に知られしかを知らず、唯其の自から省みるに當りては、生涯の事、恰も海邊に在りて、時に波濤を潜つて、光澤異常の小石を索め或は珍奇の貝殻を探らんとして遊べる兒童の如くなりしのみ。此の間に於て、眞理の大海は、自から前きに予の、發見せし所のものを給せるなり」と。

嗚呼之れ偉人謙讓の言なりと雖ども、之を聞いて果して奈何の感をなす。漂渺の天地測るべからず、人智の透徹する所知るべきのみ。吁是眞に、竟に測るべからざるか。否々、勉むること己れに在り。(完)

河野清子嬢よりの書狀

左の書面は、前に安井氏と共に暹羅に渡りたる

河野氏の、在校知友某氏に宛て送られたるもの一讀、彼地の状況を目前に髣髴せしむべく、頗る興味深ければ、乞ひ得て、抄寫する事としつ。(前略)御覽の通り、丁度私共の家の角は四辻に當つて居るので、前には道を隔て、川に向ひ、一方の前面は町家が澤山并んで居るのです、それ故階下は丸で窓を明けることが出来ず、真闇であります。道路はよほど廣く十間餘もありまして、人の通ふ路はやはり練瓦敷になつて居ます、それに電燈はいつまでも闇をてらしてゐます、當地にて驚くべき事は、道路の宜しいのと、市區の實に立派に出来て居て、町家は大概同じ形の家で、一町は皆一棟で出来て居ますのです。なぜ、かくよく出来て居るか、と、さゝますれば、それ等の家は、大概、皆皇族の方々の貸家であるといふことです。私共

の家も、王女の貸家と申す事です。ですから、整然と、整頓して、行義よく并んで、然も同形に造られて居るのです。朝になると、水まきが水をまいてあるく、かど掃除人がきれいに掃いてまわるほんとに所に似合はぬ程、街道などは清潔になつて居るのです。日本は此點から見ると、大に耻づべきである。

窓から見下して澤山見えるものは、犬、馬車、人力車、ハダカンポーです。犬はきれいなものは一つも見た事はありませぬ。大概、皆毛がぬけて病氣でもありそうな風で、それは、非常に多く居るのです、なぜかと聞きましたら、佛教の爲に殺さないといふのです。それで、散歩でもする人は大概、ステッキを持って出ます、狂犬が随分居るからです、私共の女には、散歩などは、とても思

ひもよらぬ事です。

夕方になると、馬の數群、牛の數群が、一人の御者をもて川に導かれるのです。時によると、牛數匹がひとりで町を散歩して居るのです。そこへ犬が出て来てたはひれて居るのですが、ほんとうに面白く思ひます。實にこれ等の畜ひものは柔順です、よく馴れてゐますのです。馬の小さい事には誠に驚きました。高は人の腹位しかありません。しかし、丈は随分長いから、始は何とも感じませんでした。人と比べて見て、始めて可笑く思ひました。

それから、ハダカンポーは、すてる程澤山あるのです、見る人も通る人も皆ハダカンポー許り、代り代り河に参りまして、沐みて垢をおとして行くのですが、夕方などは、やはりハダカンポーまで

數群になつて列を作らぬ許りに川に出掛けて身體を清潔にするのであります。しかし、どんな時にも、下半身を出さぬは、誠に不思議、いや感心いたしました。此處はやはり、日本人(下等人)は劣つて居ますね、女は下半身をかくした上に、乳をつゝんで居ます。大概洗足で歩いて居ます。見てゐてもたまらぬようです。

さて、此身體を洗ひ、牛馬を洗つた川水を、一方から、すん／＼酌み入れて使つて居るのです。かゝるものを洗はずとも、既に、ドブ／＼ににぞつてゐる川水、此中に船を浮べて住んで居る人も澤山ある。不潔のものは、すん／＼此川の中に流れるであらう。それをかまはず用ふる水とするとは本氣の業では出来ぬ事である。飲用水は少しもないから、私共はかめに買つたのです(蒸溜水)水

盗人が居るといふ事も尤もの事である。人力車は實に滑稽である、乗つて居る人もハダカンポー、乗せる人もハダカンポー、こゝに一つのけじめが無い様だが矢張り異いがあるとみえて、これを見ればやはり下等から又下の下等があるのであらうかそれにまだ面白いのは、人力車が、たい並足であるて居るのです。まだ一度も走つて居る人力がないのです。いや人力が走つてゐないのではない。車夫が走らないので、乗つて居る人も平氣なんので實に呑氣です。それも其筈、人力車には中以上の人は乗らないんです。中以上の人は一頭か、二頭かの馬車を街道を乗り回すのです。これは矢張り東京では出来ない事です。其他流車もあり、電車もありますよ、東京などは、たつた此開始めて、電車が置かれたでせう。當地では随分早くから

六十二
 様です、たまに前を通行する中以上と思はれる人は、男女とも、上半身は洋服のようです、下は例の如く、布をまとひ、其一端を巻きては後方に挟み、膝より下は白の靴下、それに靴を穿つて居るので、其様子は、まことに私の氣に入つて居るのです。誠に身輕のいでたちです、學生なども頗る姿勢がよい、一筋に學校に向いて進んで行くやうに見える、道などで、ぶら／＼して居る様子は一つもない、これも、日本の方が劣つて居る様にして、何ともいはれぬ耻かしい氣持がする云々 (以下略)

He that hath mercy on the poor—happy is he.

Solomon.

不幸の者を憐む其人は幸福なり

ソロモン